日本女医会誌
公益社団法人日本女医会
復刊第 250 号
2024 年 1 月 31 日発行
題字　吉岡彌生

巻頭言

2024 年のはじめに「新しい戦前」について考える

会長　前田佳子

2022 年末のテレビ番組で黒柳徹子さんに「2023 年はどんな年になりますかね？」と問われたタモリさんは「新しい戦前になるんじゃないですかね」と答えた。なぜ彼はそんなことを言ったのだろうか。

岸田政権は 2022 年 12 月 16 日に「国家安全保障戦略」など安全保障関連 3 文書を改訂して閣議決定した。「国家安全保障戦略」は 2013 年に安倍政権によって策定されてから初の改定で、「反撃能力」の保有が明記されたことで大きな転換がはかられた。さらに、ウクライナ支援を名目に、「防衛装備移転三原則」の運用指針を緩和し殺傷能力のある武器の輸出を検討している。加えて、2023 年度から 5 年間の防衛費総額を 43 兆円程度とすることも閣議決定した。これはアメリカから大量に購入した型落ちの武器の代金である。

この一連の大軍拡路線を受けて、タモリさんは「新しい戦前」の具体化が始まったと考えたのだと想像する。

2022 年 2 月にロシアがウクライナに侵攻し、まもなく 2 年が経過しようとしている。当初は数カ月で終わると思われていたが、欧米からの武器などの支援もあり、いまだ終結のめどは立たない。思い起こせば 2021 年 12 月に故安倍晋三氏が「台湾有事は日本有事」と言い、ロシアとウクライナの戦争が始まってからは繰り返し「台湾有事」を引き合いに、日本の軍拡による抑止力の必要性が語られるようになった。

2023 年 10 月にはパレスチナのイスラム組織ハマスがイスラエルに対して攻撃を開始し、これを受けてイスラエル軍は報復攻撃としてガザの空爆を開始した。イスラエル軍は難民キャンプや医療施設までも空爆し、11 月 24 日から 5 日間の戦闘休止の後、再び攻撃が始まった。パレスチナ側の死者は 25,000 人以上となり、大半が子どもか女性と言われている。この状況はジェノサイドと言っても過言ではない。

SNS で拡散されるウクライナやガザの凄惨な映像を見るにつけ、一日も早く戦いが終わることを望まずにはいられない。そして兵器を持つことが抑止力にはならないことを実感する。日本の大軍拡路線もしかりである。今求められるのは「新しい戦前」という空気ではなく、どんなことがあっても戦争という過ちを二度と起こさないという強い決意ではないだろうか。

2023 年 12 月、黒柳徹子さんはテレビのインタビュー番組の最後に次のように語った。「戦争になるとあっという間に食べるものがなくなり、あっという間に何もかもがなくなり、家族がバラバラになります。若い人たちは平和がどんなに大切か学び、本を読んで戦争がどんなに嫌なものか知って欲しい。平和で戦争のない時代にしていただきたい」。戦時下でいつも最も被害を受けるのは女性と子どもである。平和の大切さを認識し、未来の子どもたちのためにも「平和を求め軍拡を許さない」活動を続けていく必要性を改めて感じた。

日本女医会誌（復刊第250号）もくじ

巻頭言　前田佳子（1）
年頭所感　（2）
長井　桂、樋渡奈奈子、竹並　麗、宮坂晴子、馬場安紀子、塚田篤子、望月善子、渡邉　弘美、青木正美、木村友美、佐藤　麻子、牛山元美、杉本睦子、大野　広子、橋本康子、黒﨑伸子、板井八重子
学術研究助成　受賞者の軌跡　（7）
藤岡真知子、津田さやか、佐々木槙子、覚道奈津子、山本　和子、向山　順子、野口　　玲
第 16 回ダイバーシティ推進キャリア・シンポジウム報告　木村友美（12）
北から南から⑧　青山さつき（13）
群馬県女医会特別講演会　小中和子（14）
岡山支部講演会　金重惠美子（15）
宮城県女医会市民公開講演会　樋渡奈奈子（16）
第 14 回軽井沢セミナー　馬場安紀子（17）
国際女医会通信㉛　前田佳子（18）
本の紹介　前田佳子（19）
理事会議事録　（20）
役員選挙告示　（22）
第 69 回 定時総会のお知らせ／女性の健康支援事業オンライン公開講演会　（24）
会員動静／寄附者一覧／編集後記　（24）

年頭所感

医学生のキャリア支援

北海道支部　長井　桂

明けましておめでとうございます。

北海道女性医師の会では一部の会員が日本女医会会員や北海道医師会会員を兼ねており、ゆるやかな連携・協力の下に活動を行っています。本会の活動の一つに医学生のキャリア支援があります。今まで札幌医科大学と北海道大学の学生さん、医師が協力して学生向けの講演会を企画していましたが、本年度からは旭川医科大学も加わり３大学の会として講演会を開催いたしました。女性限定の会は時代に逆行していると思われがちですが、女性だけの方が意見を言いやすいのは事実だと思います。ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン（DE&I）として多様性／公平性／包摂性が重要視されておりますが、社会や医療現場が追いつくまでにまだ時間が掛かります。道内３大学の連携を今後も進めていきたいと思います。皆様今年もご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

新たしき年の初めに……
―活き活き輝く未来の子供たちと女性のために……

理事　樋渡奈奈子

故安倍首相の肝いりで導入された、小学生に１人１台供与されたタブレットでしたが、いわゆる教科書での『国語』や『算数』と同時並行授業で『ネット社会のマイナス面』の教育は十分になされているのだろうか？と常々危惧しておりましたところ、たまたま付けていたTVで2023年11月28日から日本薬剤師会が中心となり『緊急避妊薬』の試験販売が全国145の薬局で開始されたことを知りました。TVのニュースで何度も放映されておりましたが、詳細な説明はありませんでした。あくまでも『調査研究』への参加に同意した16歳以上で、18歳未満の場合には保護者の同伴が義務付けられています。女性の健康支援事業委員会では2022年度は『日本で必要なコンセプションケアとは』、2021年度は『コロナ禍における望まれない妊娠について―緊急避妊薬も含めて―』のテーマで市民公開講演会を実施し、女性における生活困窮や求められる緊急避妊薬や幼少期よりの性教育の重要性について啓発してきました。絵にかいた餅のような取得方法に女性における性教育も含めた健康啓発の重要性を再認識しました。日本女医会会員同士のネットワークにより、女性へのさらなる健康啓発並びに支援活動が展開できれば……と痛感する一日でした。

今年は視界良好！

埼玉支部　竹並　麗

明けましておめでとうございます。埼玉支部では７月に総会・講演会・懇親会、11月に講演会、11月下旬から12月上旬に忘年会を兼ねた懇親会を行っています。5月9日にCOVID-19が感染症法上２類から５類に変わり以前の日常が戻りつつあり多忙な毎日を送っております。加えて私事ではありますが無駄に眼を酷使していたためか数年前から白内障により徐々に視力が低下し遂に昨年10月に両眼の手術をしました。眼科は女性医師が多く、時期はここしかないというタイミングで駆け足に事を進めましたが心強いアドバイスを沢山いただき女医のネットワークの素晴らしさを改めて感じました。まだ、視力が固定せず自動車運転等に不安はあるものの視界も明るくなり快適に過ごしております。なかなか皆様とお会いする機会を作れませんでしたが今年は私も県外に飛び出し、皆様を埼玉支部にご招待し楽しい時間を共に過ごしたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いします。

社会に発信する存在に

理事　宮坂晴子

明けましておめでとうございます。

コロナウイルス感染症が５類に引き下げられ、日常の生活が戻り、昨年５月には、日本女医会第 68 回定時総会が栃木支部の先生方のご尽力で、宇都宮市にて無事開催されました。改めて対面にて会を行うことの大切さを実感いたしました。IT 部の先生方のご努力で、総会・講演会がオンラインで視聴できるようになり、遠方の会員の方々にも参加しやすくなったことは、今後の会の運営にて大きな意義ある変革であったと思います。

IT 化社会で生活が便利になった一方、最近さまざまな事件が報道されて憂慮しております。IT 化による人とのつながりの安易化、デジタル格差による高齢者の孤立化、青少年の麻薬等薬物問題、性犯罪の増加、学校生活への影響（いじめや自殺の増加）など。

日本女医会は公益社団法人としてより正しい医学的知識について講演会等を通して微力ではありますが、社会に発信していける存在でありたいと思います。

本年も皆様のご健勝と益々のご活躍を祈念いたします。今年もご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

宇都宮へのお誘い、再び

栃木支部　馬場安紀子

あけましておめでとうございます。

昨年は、定時総会が宇都宮市で開催され、皆様には全国よりご出席いただきありがとうございました。会場は宇都宮駅前のライトキューブ宇都宮でしたが、今年 4 月 20、21 日に同会場で「日本臨床皮膚科医会（以下、日臨皮）総会・学術大会」が開催の予定で、実行委員長を仰せ付かっております。そこで、女性医師支援のシンポジウムを企画し、日本女医会会員の先生に演者としてご登壇いただきます。シンポジウムは「女性皮膚科医の働き方改革～リーダーは私！」という元気一杯の題名にしました。女性がなりたい自分になっていく自己実現の方法を、日本女医会の取り組みも紹介しつつ演者の体験を通して考えようという趣旨です。日臨皮は開業医が主体の学会なので実臨床に即しており、小児科、総合診療科など他科の皮膚科関連セッションもあります。昨年宇都宮を経験された方もされなかった方も、また皮膚科医ではない方も、宇都宮観光を兼ねて参加してみませんか？

栃木で開催された定時総会

理事　塚田篤子

明けましておめでとうございます。昨年は、コロナ禍を経て、４年ぶりに第 68 回定時総会を宇都宮市において対面で開催することができました。総会前日のエクスカーションでは、大谷資料館や若竹の杜など宇都宮市の見どころを見学し、夜は懇親会で楽しく盛り上がりました。総会当日は、支部本部連絡会を対面・オンラインで行い、遠方の先生方のご意見を聞かせていただきました。定時総会は、時間通りスムーズに進行し、午後の公開講演会では、地元の自治医科大学皮膚科学教授小宮根真弓先生に「皮膚疾患の新しい治療」についてご講演いただきました。私たち日本女医会栃木支部会員は、栃木県で２度目の定時総会が無事終了したことに心から感謝申し上げたいと思います。ただ、残念だったのは山崎トヨ前支部長が病のため総会に出席できなかったことです。でも、先生は、11 月に開催された支部総会には、お体も回復し元気なお姿を見せてくださいました。このことを皆様にご報告し、年頭のご挨拶とさせていただきます。今年もよろしくお願いいたします。

年頭所感

理事　望月善子

新年を迎えるにあたり、まずは皆さまに感謝の意を表したいと思います。女性の健康は社会全体の基盤であり、その向上に貢献することが日本女医会の責務です。多様性と包括性を重んじ女性がより活躍できる環境を築くための行動が必要です。学術ならびに女性の健康支援委員会担当理事として、今年も積極的な学術支援活動を通じ、最新の医学知識を共有し女性の健康課題に対処してまいります。女性ならではの視点やケアの重要性を改めて感じる中で、女性医師がその力を最大限に発揮できるよう、組織としてのサポートを一層強化してい

くことが求められています。職場環境の改善や制度の見直しを進め、医療者が安心して働き続けられるような環境づくりも大切です。今年一年がより一層充実し、やりがいのあるものとなりますよう、共に学び、協力し前進してまいりましょう。結束力を高め、未来に向けて希望と活力を持って歩んでいくことを心より願っています。

龍のように上昇機運に乗りたい

東京都支部連合会　渡邉弘美

新春のお喜びを申し上げます。

2024年（令和6年）辰年、十二支の動物の中では唯一架空の生き物ですが、縁起の良い神聖な生き物とされています。辰年には植物が成長するようにどんどん勢いを増して増えていくという意味があるそうです。このところ減少気味の女医会会員が今年こそ勢いを増して増えてほしいと切望します。3年間のコロナ禍にはリモートであった支部会も、令和5年の新年会や、総会は対面で開催し、会員相互の親交を深めることができました。隔月の例会、ミニレクチャーはリモートで開催し、場所を選ばないで出席できる利点がありました。

今年の定時総会は東京で開催されます。東京都支部連合会が担当で、総会前日夕方からの懇親会を予定しております。本部との絆をより強固で継続性があるものにするためにも、2024年には東京で新たなネットワークを紡いでいければ良いなと期待しております。皆様にお目にかかるのを大変楽しみにしております。

謹賀新年

副会長　青木正美

2024年現在、世界中の人の約75%のポケットの中にはスマートフォンが入っているといわれています。これが全てインターネットにつながって、地球の裏側で起こった出来事も瞬時に知ることができるようになりました。

昨年は3年半ぶりに世界的なpandemicが明ける中、ウクライナ戦争とイスラエルでのハマスとイスラエル軍の衝突という2つの大きな戦争を抱えたまま2024年が明けました。スマホにどんなに詳しい情報が届いても、私たちは誰一人として争いを止めることはできませんでした。だからこそ、私たちには決して手放してはならないものがあると思います。「国民主権」「平和主義」「基本的人権の尊重」の日本国憲法の三原則です。何をしても戦闘は止めることはできない。ならば、絶対に戦争に加担してはならない、戦争当時国になってはならない。それには国民として不断の努力が必要であると心から思い知った次第です。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

平和と自由を願う

理事　木村友美

新年おめでとうございます。2023年ノーベル平和賞を受賞したイランの人権活動家、ジャーナリストのナルゲス・モハンマディ氏の受賞理由は「女性に対する弾圧と闘い、人権と自由を守るためにも闘った」ことです。モハンマディ女史は、女性の権利擁護や死刑制度廃止などを訴える活動が、国の安全保障を脅かしたとして、2011年から13回拘束され、有罪判決は5回、言い渡された刑期は合計31年、現在も首都テヘランの刑務所に服役中です。2022年9月ヘジャブのかぶり方が不適切だとして逮捕された女性が死亡し、警察による暴行を疑う抗議デモ「女性・命・自由」の広がりに、獄中からSNSに投稿、メディアに寄稿し、デモへの連帯を示すとともに、デモ参加者に対する政権側の暴力を繰り返し避難しています。

2024年は甲辰（きのえたつ）、成長と開運の年、努力が実を結び成就する年とも言われます。平和と自由のために闘っている方々の努力が実る年であることを願います。

地球規模の対応が求められる時代に

東京女子医科大学学内支部　佐藤麻子

新年明けましておめでとうございます。

2023年、新型コロナウイルス感染症は5類感染症と

なり、いよいよアフターコロナの時代がやってまいりました。学会や勉強会、食事会と対面による交流が復活し、街には外国人観光客が急激に増加しています。今回のパンデミック以前は、情報や人々の交流が行われるグローバル化を、医療の知識や技術が世界中で共有される良いものと感じていました。しかし今回のパンデミックにより、地球のどこかで発生した新興感染症が瞬く間に世界中に広がるというグローバル化の負の側面を痛感させられました。さらに、地球温暖化や気候変動が原因で世界的な自然災害が増加し、従来の医療提供だけでなく、さまざまな社会体制や協力体制を地球規模で考える必要がでてきました。我々も医療の健全な役割を果たすため、さらに柔軟性を持った対応を心掛ける年としたいと思います。本年もご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

対話の力で

理事　牛山元美

新年を迎え、心新たに平和と繁栄を願うところですが、現実には、多くの職場、特に介護現場で低賃金と人手不足による過重労働で心身を病む人が続出。13 年前の東電福島第一原発の廃炉は進まず、350 人を超える福島の甲状腺がんの子どもたちに目を向ける人は減り、安全管理不十分な原発は再稼働や運転期間延長が次々と決定し、核エネルギーへの依存が高まっています。日本は被爆国でありながら核兵器禁止条約を批准せず。ウクライナにガザ、残虐な武力による犠牲者が絶えない問題の多いこの地球に共に生きる者として、自分にできることは何か、考えざるを得ない毎日です。昨年亡くなった大江健三郎の作品は、過酷な現実を突きつけながらも、読後には一縷の望み・希望を生きるための術を与えてくれました。言葉によって理解し励まされる私たち。暴力や武力に頼らず、言葉で、対話で、紛争を解決する力が発揮されることを社会に求めて行動する年にしたいと願っています。

WEBの活用に期待し、平和な世界を願う

大阪支部　杉本睦子

新年明けましておめでとうございます。

新型コロナ感染症も 5 類になったとはいえ、インフルエンザをはじめ、今まで鳴りを潜めていた溶連菌感染症などの種々の感染症が大流行で、やはりマスク、手洗いが功を奏していたのかと思う一方、全体の免疫機能が衰えてしまっていることの危惧を感じているこの頃です。

ただ、今回のコロナ禍で良かったことと云えば WEB での講演会や会議が広く利用されるようになり、遠くまで足を運ばなくても知識を得ることが簡単にできるようになったことです。もちろん、対面での集まりは何にも勝る楽しいものであることは当然ですが。これからは WEB を大いに活用し、より一層知識を深め、遠くの方とでも親睦を高めることができるようになることを期待しています。

そしてまた、世界中の思いがけないところで紛争が勃発し、罪のない人々が命を落とし、つらい思いをしていることに本当に心が痛みます。最近では他人ごとではなく日本も巻き込まれかねない恐ろしささえ思ってしまいます。絶対そのようなことになってはいけません。

この一年が世界中、平和で穏やかな素晴らしい年になることを心より念じております。

女性医師の活躍を望む

岡山支部　大野広子

明けましておめでとうございます。

岡山県ではさまざまな女性医師支援の活動が行われています。県医師会主催の「天晴れおかやま女性医師リーダー養成ワークショップ」もその一つで、「ゆっくりでも良い、指導医になろう」というスローガンのもと、その年に指導医として活躍した女性医師に大賞や奨励賞が与えられ、受賞講演会を毎年開催しています。また、岡山大学病院ダイバーシティ推進センターでは、女性医師の復職支援のプロジェクトを立ち上げ、多くの女性医師が復職しています。

女性医師の多くは出産、育児というイベントがあり、

医師の仕事との両立が大変な時期があります。サポート体制がとても重要です。今まで以上にさまざまな働き方を受け入れられる職場環境が整えられることを望んでいます。また女性医師の指導医が増えれば、働きやすい環境が生まれやすいと考えます。

今年も全国の女医会の皆様のご健勝とご活躍をお祈りいたします。

国民のQOL向上に貢献を

香川支部　橋本康子

新年おめでとうございます。今年は診療報酬、介護報酬、障害福祉サービス等報酬のトリプル改定が行われます。高齢者人口がピークを迎える2040年に向けて、医療と介護の分野で重要な役割を担う私たちにとって、新たな挑戦が始まる1年とも言えるでしょう。

日本の医療と介護システムは、世界に先駆けて多くの点で成功を収めてきました。平均寿命の延伸や要介護者の自立化などの実例は、質の高い医療・介護サービスを提供し続けてきた成果と考えています。

今後は、これらのサービス提供だけでなく、その費用についても厳しく見られることになるでしょう。2024年を含め、今後の改定では、成果を反映した報酬システムに比重が置かれるはずです。質向上のための加算を積極的に導入するなど、限りある財源を有効活用し、医療介護システムを持続させなければなりません。その成果として、国民のQOLを向上させることに貢献してまいりましょう。

医療における女性リーダーを

長崎支部　黒﨑伸子

新年明けましておめでとうございます。

コロナ禍でさまざまな活動が制限された3年余りを経て、ながさき女性医師の会と協働で開催したイベントは「長崎大学医学部に女性活躍の風が吹く」と題して、この2年間に長崎大学医学部および大学附属病院に誕生した4人の女性教授に話をしていただきました。自分の専門分野の業績を地道に積み上げる過程を苦労ではなく、楽しい生きがいのように語られ、かつ、次世代を担う医学生の教育にも愛を感じました。彼女たちのようなロールモデルが身近にいることで、それに続く人たちがつながっていくことを期待しています。

昨年は、シーボルト来日200周年という記念の年で、長崎ではさまざまな講演会や企画展がありました。＊私たちはシーボルトの娘・楠本イネ女史の墓参を続けており、改めて、彼女の功績にも思いをはせたところでした。先達の思いを果たすべく、日々精進したいと思います。

＊ http://www.nmhc.jp/exhibition/2023/great-siebold/index.html

命を大切にする姿勢を積み重ねることの大切さ

熊本支部　板井八重子

ウクライナへの侵攻に続くイスラエルのガザへの攻撃を経験し、生命が危機にさらされる事態がここまで深刻になることを、21世紀当初誰が想像できたでしょうか？

私の心に深く沈殿したままになっている日本国内の命にまつわる出来事は、ウィシュマさんの助けを求める声に応えた法の改正が叶わなかったことでした。

もどかしい思いの中で、あることに気がつきました。それは、医師としてこれまで当たり前のこととして日々向き合ってきた方々の命を大切にする姿勢を、これまで以上に積み重ねることの大切さです。昨年96歳の父を見送った経験を振り返りながら、日々の診療に当たっていきたいと思います。

このような思いを述べさせていただける場の存在に感謝しつつ、全国の皆様のご活躍を祈念いたします。

学術研究助成　受賞者の軌跡

骨髄異形成症候群における アザシチジンによる DNA メチル化変化の検証

長崎大学原爆後障害医療研究所
原爆・ヒバクシャ医療部門
血液内科学分野大学院生　藤岡真知子

研究目的

骨髄異形成症候群（MDS）および急性骨髄性白血病（AML）は、造血幹細胞 / 前駆細胞レベルにゲノム異常とエピゲノム異常が蓄積することを基本病態とする骨髄性腫瘍である。がん抑制遺伝子における DNA メチル化状態による発現低下は、MDS/AML における代表的なエピゲノム異常である。5-Azacitidine（5-Aza）は、腫瘍細胞の DNA メチル化状態に変化をもたらすことで薬理作用を発揮することが既に知られているが、MDS と比べて AML では 5-Aza 単剤での治療効果は乏しいとされる。本研究は、DNA メチル化阻害剤抵抗性に関連する遺伝子群を同定し、5-Aza との併用療法を図るための治療標的を見出すことが目的である。

今回、5-Aza 抵抗性を示す MDS 由来の AML 細胞株である KG-1a、SKM-1 を用いて、5-Aza 投与後に起こる DNA メチル化状態の変化と遺伝子発現の変化について解析を行った。

方法

5-Aza および DMSO（コントロール）投与後の細胞株（SKM-1,KG-1a）において、投与後 4 日目に網羅的な DNA メチル化解析（長鎖リード・シーケンス）を行うとともに、投与後 4 日目と 6 日目に網羅的遺伝子発現解析（RNA シーケンス）を実施した。

結果

網羅的な遺伝子発現解析では、投与後 4 日目において KG-1a と SKM-1 でそれぞれ 21 個と 79 個の遺伝子発現の上昇を認めた。投与後 6 日目において、KG-1a と SKM-1 ではそれぞれ 179 個と 68 個の遺伝子発現の上昇を認めた。同定された遺伝子に対してエンリッチメント解析を実施したところ、細胞内因性自然免疫シグナル伝達経路およびアポトーシスに関わる遺伝子群において有意な発現上昇を認めた。DNA メチル化解析においても、遺伝子プロモーター領域で細胞内因性自然免疫シグナル伝達経路およびアポトーシスに関わる遺伝子群の DNA 脱メチル化が集中して誘導されていることが示された。

考察

5-Aza 投与により細胞内因性自然免疫シグナル伝達経路とアポトーシスに関連する遺伝子プロモーター領域の DNA 脱メチル化が起こり、それらの遺伝子発現が上昇すると考えられる。結果として、5-Aza 抵抗性の性質を示すことに寄与していると考えられる。実際の臨床の現場では、5-Aza と BCL2 阻害剤（アポトーシスの誘導剤）の併用療法が AML に用いられている。今回の結果は、アポトーシス誘導剤の有効性を裏付けるとともに、細胞内因性自然免疫シグナル伝達経路が分子標的となる可能性を示唆するものであった。今後は、患者検体を用いてさらなる解析を行っていく方針である。

謝辞

この度は、第 42 回日本女医会学術研究助成を賜り、日本女医会理事の先生方、関係者、会員の皆様に深く御礼を申し上げます。今回の助成により網羅的な遺伝子発現解析を行うことができ、研究を前に進めることができました。今後の医学の発展に貢献できるようにさらなる研鑽を積んでまいりますので、ご指導のほど何とぞよろしくお願い申し上げます。

単一 T 細胞トランスクリプトーム解析から、ヒト妊娠子宮における制御性 T 細胞の分化誘導過程を明らかにする

富山大学学術研究部医学系　産科婦人科学教室
津田さやか

研究目的

胎児は母体にとって異物である父親由来抗原を発現するが、妊娠中は母子間免疫寛容が成立しているため

拒絶されない。母体の細胞障害性 T 細胞（CTL）や CD4 陽性ヘルパー T 細胞（conventional $CD4^+$ 陽性細胞；$CD4^+$Tconv）は T 細胞受容体（TCR）で胎児抗原を認識し拒絶反応を誘導しうるが、免疫応答を抑制する制御性 T 細胞（Treg）により抑制される。妊娠高血圧腎症（PE）は妊娠中期以降に高血圧・蛋白尿・胎児胎盤機能不全を生じ、母児ともに重篤となりうる疾患である。PE の病態には、妊娠中の子宮内膜 Tconv と Treg のアンバランス、Treg の機能低下等による母子間免疫寛容の破綻が関与していることが報告されている。そこで､PE における異常 T 細胞サブセットの詳細・病態関連分子を解明し、免疫学的治療開発につなげることを目的とした。

方法

a）正常妊娠例（妊娠初期 3 例、後期 3 例)、PE 例（3 例）の胎盤より子宮内膜 CD4 陽性細胞を分離し、単一細胞から網羅的m RNA 発現解析、TCR 配列解析を施行した。

b）mRNA 発現パターンを基に Treg と $CD4^+$Tconv クラスタリングを施行した。TCR のアミノ酸配列解析も併せて施行した。PE では正常妊娠と比較し遺伝子発現に特徴的な変化が生じるクラスターと、異常発現している遺伝子を検討した。

結果

子宮内膜 CD4 陽性細胞は、ナイーブ・エフェクター・メモリー型 $CD4^+$Tconv、Treg から成るヘテロな細胞集団であった。エフェクター $CD4^+$Tconv と Treg は同一の TCR 配列を有するクローン化した T 細胞の割合が高く、子宮局所での抗原特異的反応に寄与していると考えられた。一方で、TCR 配列の重複は $CD4^+$Tconv と Treg 間でほとんど見らなかったことから、両者は異なる抗原認識・誘導経路のもと分化したと考えられた。

エフェクター Tconv 中に、PE において perforin 遺伝子をはじめとする細胞傷害性・T 細胞活性化を示す遺伝子が上昇していたサブクラスターを認めた。一方で、Treg は PE で PDCD1 等の疲弊関連分子ならびに STAT1 遺伝子発現が上昇していた。

考察

STAT1 高発現疲弊 Treg は全身性エリテマトーデス（SLE）で報告があり、Treg の抑制活性の低下と疾患重症度との関連が指摘されている。SLE と PE に共通した T 細胞免疫異常が存在している可能性があるかもしれない。また、エフェクター Tconv は活性が抑制されるべきであるが、PE では異常な活性化が生じていると考えられた。Treg 機能の是正ならびにエフェクター CD4Tconv の抑制が PE への免疫学的治療となりうる。TCR 解析から、両者は対応抗原と誘導経路が異なると推察されるため、異なるアプローチが必要となるであろう。共同研究機関の Cincinnati Children’s Hospital Medical Center の Tilburgs Lab とともに両サブセットの機能解析・病態関連分子のさらなる検討を行う予定である。

謝辞

第 42 回日本女医会学術研究助成を賜り、日本女医会理事の先生方、関係者の皆様に心より御礼申し上げます。一歩ずつではありますが研究を積み重ね、PE の病態解明に貢献していきたいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほど何とぞよろしくお願い申し上げます。

光線力学的療法の腫瘍免疫増強メカニズムの解明と免疫チェックポイント阻害薬による相乗効果について

名古屋市立大学大学院医学研究科
消化器・代謝内科学　佐々木槙子

研究目的

化学放射線療法後再発食道癌に対する第 2 世代光線力学療法（PDT）が保険適用となり、優れた臨床効果が報告されている。Talaporfin PDT（TS-PDT）による、免疫原性細胞死の指標となる DAMPs の誘導効果、免疫チェックポイント阻害薬（抗 PD-1 抗体）との併用による抗腫瘍効果の増強効果につき消化器癌細胞株（KYSE30・HCT116・MC38）を用い検討した。

方法

TS-PDT による DAMPs の誘導能を、IF・ELISA 等にて解析した。 TS-PDT と抗 PD-1 抗体の併用効果を、リアルタイム細胞アナライザーを用いて検討した。 C57BL/6 マウスに MC38 を左右両背側に移植した syngeneic モデルを作成し、非治療群・TS-PDT 単独群, 抗 PD-1 抗体単独群・TS-PDT+ 抗 PD-1 抗体併用群における抗腫瘍効果を検討した。

結果

TS-PDT 治療後細胞では、ATP・CRT・HMGB1 などの各種 DAMPs が誘導された。*In vitro* で TS-PDT と抗 PD-1 抗体の併用による腫瘍細胞増殖抑制効果を認

めた。*In vivo* では TS-PDT と抗 PD-1 抗体の併用 TS-PDT 単独群・抗 PD-1 抗体単独群は腫瘍縮小効果を認め、併用群では有意に強力な抗腫瘍効果を認めた。非照射側の腫瘍においても TS-PDT 治療群ではアブスコパル効果による腫瘍増殖抑制効果が観察され、併用群ではさらに強力な抗腫瘍効果を認めた。

考察

TS-PDT は、免疫原性細胞死を誘導し照射部位の直接的な殺細胞効果だけでなく光線照射されていない遠隔部位の腫瘍にも抗腫瘍効果をもたらした。さらに抗 PD-1 抗体を追加することで癌免疫への相乗効果が示唆された。

謝辞

第 42 回日本女医会学術研究助成を賜り、日本女医会学術助成選考委員ならびに役員の先生方、会員の皆様、関係者の皆様に感謝申し上げます。臨床業務と研究の両立の難しさを実感し、心折れそうになることもありますが、このようにご支援いただけたことが大変嬉しく、頑張ろうと強く思いました。これからも、新たな治療方法開発につながる研究成果を上げられるよう、引き続き努力してまいる所存です。今後もご指導のほど、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

塩基性線維芽細胞増殖因子（bFGF）と細胞増殖保持型人工真皮を用いた脂肪再生療法の開発

関西医科大学形成外科学講座
覚道奈津子

背景

塩基性線維芽細胞増殖因子（bFGF）は、細胞増殖因子、血管新生因子、神経栄養因子として幅広い機能を有し、様々な細胞に対して増殖活性を示すとともに、近年では脂肪分化への関与が報告されている。一方、細胞増殖保持型人工真皮の豚腱由来アテロコラーゲンスポンジであるペルナックは、組織欠損創に貼付すると、コラーゲンスポンジの空隙内に毛細血管や線維芽細胞等の種々の細胞が侵入し、生理活性物質の局所投与においてその作用を促進させると報告されている。

今回われわれは、bFGF を含浸させた豚腱由来アテロコラーゲンスポンジ（ペルナック , グンゼ）をマウス皮下に埋入し、脂肪再生効果を検証した。

方法

メッシュ補強タイプのペルナック 10 × 5mm 大に細切し、bFGF（5mg/50ml）を 37℃で 60 分間含浸させた。コントロール群として、同体積の生理食塩水を含浸させ実験に供与した。BALB/c-nu/nu（6w, 雄）の胸部皮下にスポンジを埋入し、1,2,3,4 週後に HE 染色、perilipin 免疫染色、von Willebrand factor 免疫染色を行い、組織学評価を行った（n=6）。

結果

埋入後 2-3 週目よりコラーゲンスポンジ内に perilipin 免疫染色で陽性を示す脂肪細胞が出現し、4 週目には FGF-2 群でコラーゲン部分は完全に脂肪組織に置換された。コントロール群では脂肪新生は認められなかった。コラーゲン内の新生血管数は、4 週目において bFGF 群が有意に促進した。

考察

bFGF と豚腱由来アテロコラーゲンスポンジの埋入によりマウス皮下で脂肪新生効果が認められた。今後、乳癌術後の欠損部位や加齢性の上下眼瞼の陥没など軟部組織への再生に対し、bFGF と細胞増殖保持型人工真皮を用いた脂肪再生療法が有用である可能性があり、今後は白色家兎やミニブタ等の大型動物を用いて評価を行う予定としている。

謝辞

日本女医会学術研究助成を賜り、日本女医会選考委員の先生方、会員の先生方、関係者の皆様に心より御礼を申し上げます。今回の受賞を励みとし、さらに研究を発展させることができるように努めていきたいと考えています。今後とも、何卒ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

ムコイド型肺炎球菌の免疫学的特異性に着目した侵襲性感染症のメカニズムの解明

琉球大学大学院医学研究科
感染症・呼吸器・消化器内科学講座（第一内科）
山本和子

研究目的

肺炎球菌（Streptococcus pneumoniae）は肺炎及

び侵襲性肺炎球菌感染症（Invasive Pneumococcal Disease: IPD）の主要な原因菌である。肺炎球菌のコロニーは莢膜光透過性によって、不透明（Opaque 型）及び透明（Transparent 型）に分類され、それらは菌の置かれる環境によって互いの相にスイッチすると言われている。動物実験では Opaque 型は侵襲性感染症で見られ、Transparent 型は鼻腔内コロニー形成に関与すると報告されている。しかし、ヒト臨床における肺炎球菌の莢膜光透過性の意義を評価した研究はない。そこで本研究では、肺炎球菌肺炎の臨床的重症度とコロニー莢膜光透過性との関連を検討した。

方法

2012 年から 2019 年の間に 4 つの医療機関で行った後方視的研究である。年齢≧ 20 歳、胸部 X 線検査で新たな肺浸潤影の存在と急性呼吸器症状により肺炎が確認され、培養喀痰から肺炎球菌が同定され、入院による治療を受けた患者を研究に組み入れた。下気道検体から得られた肺炎球菌株のコロニー光膜透過性を実体顕微鏡で同定した。コロニー光膜透過性と国立感染症研究所において Quellung 法によって同定された菌株の血清型、肺炎の重症度との関連性を解析した。ムコイドコロニー表現型の血清型 3 及び 37 は、コロニー形態が明らかに異なるため、研究から除外した。

結果

合計 92 例の患者が組み入れられた。対象は高齢者（中央値：72 歳）が多く男性 67%であり、59%が市中肺炎であった。分離された肺炎球菌株のうち、41 株（45%）、12 株（13%）、39 株（42 %）が、それぞれ Opaque 型、Transparent 型、Mix 型を示した。Transparent 型と Mix 型を合わせて non-Opaque 型（51 株）としたが、Opaque 型と non-Opaque 型は、肺炎球菌の血清型とは一定の関連性は示されなかった。また、菌株が分離された患者背景や肺炎重症度スコアにおいて統計的に有意な差は認めなかった。しかし菌血症の発生率は、Opaque 型（12%）が non-Opaque 型（0%）に比べて有意に高かった（p=0.045）。本研究成果は、原著論文として Journal of Medical Microbiology 2023 に報告した。

考察

Opaque 型はヒトにおける侵襲性感染症に関連することが示唆された。肺炎球菌の膜透過性評価は IPD の予測因子として役立つ可能性がある。

謝辞

本研究の遂行にあたって、第 39 回日本女医会学術研究助成を賜り、日本女医会選考委員の先生方及び会員の皆様、関係者の方々に心より感謝申し上げます。今回の受賞を励みとし、さらに研究を発展させることに努めてまいりたいと存じます。

オルガノイド培養系を用いた抗生剤併用薬剤スクリーニングによる大腸癌の再発抑制治療法の探索

国際医療福祉大学三田病院 消化器外科
向山順子

研究目的

CDX2 低発現大腸癌は術後再発が多い予後が不良な大腸癌のサブタイプであり、通常は根治切除術のみで経過が良好であるステージ 2 の病期でも極めて転移再発率が高い。申請者はこれまでの解析により、同大腸癌が APC 遺伝子非依存性の発癌機構や腸管内分泌系細胞などの特有の細胞系譜をもつことを明らかにしてきた。本研究では、さらに同大腸癌に対する独自の薬剤スクリーニングを展開し固形癌では初となる細胞系譜に基づく最適化治療の確立を目指す。

方法

CDX2 低発現大腸癌異種移植マウスの腫瘍、マウス正常腸管を単細胞化し細胞表面マーカーで標識し、フローサイトメトリーで各細胞集団に分離した。さらに、各細胞集団をオルガノイド培養系にて増殖能などの機能評価を行った。通常の大腸癌細胞株と CDX2 低発現大腸癌細胞株をオルガノイド培養し、薬効試験を行った。

結果

新規の抗体のコンビネーションを用いることで、マウス大腸より組織幹細胞（Epcam+/Cd66a-/Cd44+/Kit-）、杯細胞（Epcam+/Cd66a-/Cd44+/Kit+）、Paneth 細胞（Epcam+/Cd66a-/Cd24mid/Cd166high）、腸管内分泌細胞（Epcam+/Cd66a-/Cd24high/Cd166low）、吸収上皮細胞（Epcam+/Cd66a+/Cd44-）の 5 種類の腸管上皮細胞を高い純度で分離することに成功した。大腸癌異種移植マウスの腫瘍のオルガノイド培養を行い、抗癌剤、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬を負荷したところ、CDX2 低発現大腸癌ではパクリタキセルとビンクリスチンなど、通常の大腸癌では用いられない薬剤の感受性が高い傾向にあった。

考察

CDX2 低発現大腸癌に対するオルガノイド培養系を用いた薬剤スクリーニングを行うことで、同大腸癌は通常の大腸癌とは異なる薬剤感受性を示すことを明らかにした。

血液腫瘍では、びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫に対する R-CHOP 療法など細胞系譜による疾患分類や治療法の選択が標準化され治療成績の向上に貢献しており、本研究の成果は固形癌では初となる細胞系譜に基づく最適化治療法の確立につながる知見となる点で大きな意義を持つ。

謝辞

日本女医会第 4 回山﨑倫子賞、並びに第 5 回山本纊子賞を賜り、関係者の皆様に心より感謝を申し上げます。今後も臨床と研究の両方向から大腸癌の予後改善を目指す所存でございますので、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

肉腫における奏効性を有する薬剤の同定：
患者由来肉腫モデルを用いた薬剤スクリーニングとプロテオゲノミクス解析を駆使して―骨巨細胞腫における挑戦

国立がん研究センター研究所希少がん研究分野
野口　玲

背景と目的

本研究の目的は、希少疾患である肉腫に対する奏効性を有する抗がん剤を見つけることである。肉腫は間葉系の腫瘍で、組織型が約 200 種類に及ぶ。疾患の発生頻度が少ないため、腫瘍組織を入手することが難しい。そのため、細胞株や実験動物などのモデル系がなく、基礎研究や前臨床試験が進みづらい。また、疾患の希少性から、患者を集めることが難しく、治験の実施が困難で、新規治療薬開発は滞っている。本研究では、肉腫の中から、“骨巨細胞腫”という中間悪性型の骨腫瘍に注目した。根治療法は手術であるが、局所浸潤性が高く、術後の再発が高頻度に認められる。術後再発症例にデノスマブを用いられるが、50% の症例で抵抗性を示し、治療開発が求められる。しかし、前述のとおり、疾患の希少性から新規の治療開発は難しい。この問題に対して、新規治療薬開発よりも他疾患で使用されている既存薬を使用して治療を行う「既存薬の適応拡大」のほうが肉腫の治療薬の開発として有用であるか、可能性を検討した。

方法

骨巨細胞腫の腫瘍組織から患者由来細胞株を樹立した。NCC オンコパネル・SNP アレイを用いて、治療標的となるゲノム変化を調べた。三次元ペプチドアレイで 100 種類のチロシンキナーゼの活性を網羅的に測定した。FDA 承認のキナーゼ阻害薬 60 剤を用いて薬剤スクリーニングを行った。これらの結果を統合した。

結果

骨巨細胞腫 8 症例の腫瘍組織を用いて、患者由来骨巨細胞腫細胞株 8 株を樹立した。NCC オンコパネルおよび SNP アレイでは治療標的となりうるゲノム変化は認めなかった。三次元ペプチドアレイを用いて全細胞株において 7 キナーゼの活性が高いことを見出した。薬剤スクリーニングから、16 キナーゼを標的とする 9 剤を同定した。結果を統合し、活性が高く、かつ治療標的となりうるキナーゼとして KDR と LYN を同定し、さらに KDR と LYN を標的とした 5 剤を同定した。

考察

本研究にて、薬剤スクリーニングで同定した 9 剤のうち 4 剤はキナーゼ活性異常を認められず、オフターゲット薬剤であることを明らかにした。ここから薬剤スクリーニングで同定される薬剤の中にはオフターゲット薬剤が含まれることが示唆された。臨床応用につながるオンターゲット薬剤を同定するために、患者由来細胞株を使用した薬剤スクリーニングとプロテオゲノミクス解析を統合したアプローチが重要であることが判明した。われわれのアプローチは、効率よくオンターゲット薬剤を同定でき、骨巨細胞腫を含めた肉腫の治療開発に有用な知見をもたらすと期待される。今後、当研究室で樹立した肉腫細胞株 100 株において本システムを用いて、治療開発につながる薬剤の同定を試みる予定である。

謝辞

貴会の第 40 回日本女医会学術研究助成をいただきまして、大変ありがとうございました。今後も発展的な研究ができるように精進してまいります。この場をお借りして、関係各位の皆様に御礼申し上げます。

第 16 回　ダイバーシティ推進キャリア・シンポジウム　報告

「多様なキャリアは面白い」

2023 年 11 月 1 日～ 11 月 7 日オンライン配信

ダイバーシティ推進委員長　**木村友美**

ダイバーシティ推進！

2023 年度より「男女共同参画事業委員会」は「ダイバーシティ推進委員会」に名称を改めました。ダイバーシティすなわち多様性を重んじ、多様な人々の社会共同参画、キャリア・アップを考える機会になることを目指し「医学を志す女性のためのキャリア・シンポジウム」も「ダイバーシティ推進キャリア・シンポジウム」になりました。

キャリア・シンポジウムは、新型コロナウイルス感染防止のため、2020 年第 13 回よりオンラインで開催しております。2023 年 5 月 8 日新型コロナウイルス感染症は 2 類から 5 類に移行し、日常生活が戻ってきた感はありますが、より多くの方々にご視聴いただきたく、第 16 回もオンライン配信の形式を継続し、YouTube による配信期間を1週間に延長しました。

小島玲子先生講演　丸井グループのウェルビーイング経営　～取締役と医師、両方の立場から～

第 1 部は、株式会社丸井グループ取締役上席執行役員 CWO（Chief Well-being Officer）、ウェルビーイング推進部長で専属産業医の小島玲子先生にご講演いただきました。

小島先生は、両親共働きの家庭で育たれ、働く人を支える医師になりたいという思いで産業医になられたそうです。産業医科大学医学部卒業後、内科系臨床研修、心療内科外来診療、北里大学大学院での産業精神保健学修得、大手メーカーの専属産業医を経て、株式会社丸井グループの専属産業医になられました。

産業医になってからの数年は『社員に健康指導をしても自分ごととして聞いてもらえず、行動変容につながらない。毎年 10 月の「全国労働衛生週間」の健康講話は単なる年間行事。企業幹部も「健康が最も大事」と言うわりには、健康管理部門は企業活動の本筋から離れた位置づけになっていることが多い』という現場を目の当たりにして、産業医の職業的存在意義に悩まれたそうです。

1946 年世界保健機構（WHO）憲章では「健康とは、病気ではないとか弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態（well-being）にあること」と定義されています。

産業医として「本来の健康＝Well-being」を目指したい。働く人みんながイキイキするためには、社員の主体性を高める戦略や仕掛けが必要である。という小島先生の考えは、2011 年に着任された丸井グループの『流行のモノを置けば売れた時代の終焉により「受け身的な姿勢」から「自ら考え、自ら行動する」自律的な企業風土への変革が経営存続の鍵である』という考えに呼応し、「手挙げ方式」の健康経営を編み出しました。

全社員対象に「なぜ健康経営（現 Well-being）推進プロジェクトに参加したいのか」をテーマにした作文（800 字）を公募する形で参加メンバーを募集し、1 期約 50 名を選抜、月 1 ～ 2 回、就業時間中にプロジェクトを実施、1 期 1 年間のメンバー総入れ替えで 5 期まで施行。2013 年には女性特有の健康課題サポートのため、41 ヶ所すべての事業所に「女性ウェルネスリーダー」を設置し、年 4 回就業時間中に半日を要してウェルネスリーダー会議を開催したところ、「女性の健康検定」に社員 600 人以上が自発的に受験、資格を取得され（2023 年 1 月現在）、女性 40 歳以上の乳がん検診受診率は 2014 年 53%から 2021 年 74%に、20 歳以上の子宮頸がん検診受診率は 36%から 49%に向上しました。これは世の中の検診受診率平均（乳がん 47.4%、子宮頸がん 43.7%）を大きく上回っています。

社員の主体性を高めるために手挙げ制を基盤に健康経営を推進したことが、結果的に企業風土の変革に貢献することになり、小島先生は取締 CWO になられました。

健康経営の具体的な成功例は、是非日本女医会ホームページの見逃し配信でご確認ください。

ディスカッション

第 2 部は、小島玲子先生、前田佳子会長、青木正美副会長、宮坂晴子理事でディスカッションを行いました。

米国の National Wellness Institute は「ウェルネスとは単に身体的に健康の状態だけでなく、情動的な安定、明晰な思考、愛する能力、創造性、変化への順応、洞察的な直感、精神性の維持、これらすべてを網羅するものである。」と示しています。企業

業績が悪化し、食べていくのがやっとという状態では、ウェルネスを目指すプロジェクトどころではなくなるため、ウェルネスがみんなにもたらされるためには、平和と貧困解消が必要です。作業効率や生産性を求めるだけでは、働く意味ややりがいを見出しにくい社会になってしまいます。すべての人が健康リテラシー（必要な健康情報を入手し活用する能力）を上げて、非正規労働者にも健康経営の恩恵が行きわたるには、経営トップの積極的関わりや国の政策が大事です。2015 年～ 2030 年の持続可能な開発（SDGs）は負の遺産を残さないための取り組みですが、ポスト SDGs の新しい世界には、well-being を高めるために、多様な人材による、いろいろな視点での取り組みが必要です。

ご講演いただいた小島玲子先生に心より感謝申し上げます。

第 8 回

北から南から

食い倒れ・お笑い・USJ

大阪支部
青山さつき

人口 800 万人超の西日本の中心都市、大阪への皆様が抱かれるイメージと言えば…「食い倒れ」「お笑い」「USJ」というところでしょうか。ではその実態について解説させて頂きます。「食い倒れ」文化はたこ焼き・お好み焼きなどの粉ものはもちろんのこと、老舗の割烹、お寿司、天ぷら、串カツ、肉まん、焼き肉、おうどん…etc。多くのお店において、多彩なものを大きな外れなく、おいしく食していただけますし、タコ焼き器が一家に一台あるというお話もほぼ事実です。次に「お笑い」文化ですが、府民の笑いのレベルは老若男女問わず高く、その一因を担っているのが 1950 年前後に発祥の松竹や吉本新喜劇という舞台演劇がテレビの普及とともに土曜お昼の娯楽として定着したことが大きく、私も記憶をたどれば、番組に間に合うように走って帰宅しておりました。他にも昭和 10 年創立の大槻能楽堂や、落語中心の演芸場では天満天神繁昌亭と、笑いへのしっかりした土台があるのです。そして「USJ：ユニバーサルスタジオジャパン」、ここは近年 1 番人気の大阪名所といっても過言ではありません。2022 年には世界のテーマパーク入場者数ランキング第 3 位で、東京ディズニーランドを 4 位に従えました！　そのコンセプトは実に雑多で、映画の世界・アニメの世界・ゾンビの世界などがごちゃ混ぜに入り乱れていて、そこも体裁をあまり気にしない大阪特有の文化のように思います。大都会らしく、高層ビルや商業施設が立ち並ぶ一方で、政治、経済、文化が繁栄してきた歴史もあり、古墳や寺社仏閣などの建造物も残っております。賑やかで、華やかで、でも少し適当で、そんな大阪にぜひ一度お出掛けくださいませ。楽しいですよ。

群馬県女医会特別講演会

日本医師会のコロナ対策と今後の展望

群馬支部　小中和子

群馬県女医会では年１～２回学術講演会を開催しています。

令和５年度特別講演会は７月 22 日土曜日、群馬ロイヤルホテルにて、この３年間感染症危機管理対策担当として奔走された日本医師会常任理事釜萢敏（かまやち さとし）先生を講師にお迎えし、「日本医師会のコロナ対策と今後の展望」と題してご講演賜りました。釜萢先生は群馬県高崎市で御開業されており、山下由起子群馬支部長と同級生というご縁で今回の開催となりました。公益社団法人日本女医会からの助成も頂き、会場での講演会は４年振り、WEB も含めたハイブリッド開催で約 50 名の参加となりました。

＊　＊　＊

釜萢先生からはまず直近の感染状況について説明がありました。５類移行後、徐々に感染者数が増加しており、この状態がしばらく続くと予想されることや、XBB 含め現在は複数の株が共存していることなどを話されました。下水を用いた感染の把握、死亡診断書からの解析など、さまざまな分析がされていることを知りました。

次に日本医師会の主な対応について説明がありました。

・初動体制～「医療的危機的状況宣言」の発表
・クルーズ船での JMAT 活動→ COVID-19 JMAT 派遣
・新型コロナワクチン接種への協力（接種体制の構築等）
・新型コロナ感染症に対応できる人材の育成
・５類移行後の各地の医療提供体制の取り組みを支えるための財政支援についての要望
・発熱外来診療体制の維持・拡充に向けた取り組み
・５類移行後の外来診療体制の維持・拡充に向けた地域医師会への協力要請

2020 年１月７日の都道府県医師会への第１報、同月内の対策本部設置から始まった取り組みについて丁寧な説明がされ、群馬県では臨床検査技師がワクチン接種の役割を担ったことが特記すべきことだったとのことでした。

ワクチン接種については今年度の秋冬の接種は XBB 系統ワクチンが妥当であり、WHO やアメリカ、EU でも同ワクチンの接種が予定されているとのことです。同ワクチンの有効性は確認されており、65 歳以上の方、基礎疾患のある方は積極的に勧めてほしいと話されました。夏以降一定の感染拡大が起こる可能性があると示唆され、講演は終了となりました。

この後も参加者より活発な質疑応答が行われ、大変有意義な時間となりました。講演会終了後行われた懇親会も４年振りに開かれ、さまざまな意見交換が行われました。

日本女医会岡山支部　講演会

未来の女性の笑顔をつくるために
「知る」「守る」「つながる」支援を目指す

2023 年 10 月 22 日（日）岡山中央病院セミナー室

岡山支部　**金重惠美子**

日本女医会岡山支部では、未来の女性の笑顔をつくるために「知る」「守る」「つながる」支援を目指し、シンポジウム形式で講演会を開催いたしました。医療関係者、心理士、大学・教育機関、行政、女性と子どもの支援団体、大学院生 27 名が参加しました。

1. シンポジウムⅠ
未来の女性の笑顔をつくるために　「知る」

座長の岡山大学学術研究院保健学領域中塚幹也教授からは、「知る」をテーマに 2011 年から産婦人科医会、岡山県、岡山大学が連携し「妊娠中からの気になる母子支援」連絡システムの運用を開始、産科と地域母子保健スタッフによる切れ目ない支援を展開、全国的に増加している虐待相談対応件数に抑制傾向が見られていることが報告されました。岡山県警察県民広報課髙橋玲子係長から、SNS の普及による犯罪被害の増加や、本年 7 月 13 日に改正された刑法の不同意性交罪について、支援の実際を伺いました。岡山県保健医療部健康推進課感染症対策班古山いくみ主任から、20 代女性の梅毒の増加が報告され、早期発見、早期治療が重要で、岡山県では検査体制の確保、疫学調査の強化、戦略的な普及啓発の 3 本柱で取り組んでいることが報告されました。

2. シンポジウムⅡ
未来の女性の笑顔をつくるために　「守る」

座長のウイメンズクリニック・かみむら上村茂仁院長からは、「守る」をテーマに「緊急避妊薬処方から見えてくる事」と題して 2021 年 10 月よりおかやまアフターピルプロジェクト活動を行い、その現状と課題が報告されました。岡山中央病院金重恵美子副院長から、2022 年 4 月より「岡山包括的セクシャリティ教育研究会」とそれに関連してできた「ユースクリニック」の活動報告がありました。岡山市男女共同参画相談支援センター篠原照明所長から、同センターが行っている支援について報告がありました。岡山県立大学岡崎愉加准教授から、摂食障害の一次予防を目的としたパンフレット教材が養護教諭や医療従事者等の評価を得て、加筆修正後、完成予定であることが報告されました。

3. シンポジウムⅢ
未来の女性の笑顔をつくるために　「つながる」

座長の岡山県議会大塚愛議員から、「つながる」をテーマにシンポジウムが行われました。岡山県子ども家庭課小原正之副課長から、さまざまな困難な問題を抱える女性に対する支援の根拠法として困難女性支援法が成立したことが報告されました。被害者支援「おかやま心」難波光理事から、被害者を守るつながりを構築するには関係機関との連携は重要で、支援の輪が広がることは心強く、つながることの重要性についてお話されました。NPO 法人妊娠しぇると SOS 小林智子理事長から、予期せぬ妊娠への切れ目ない支援のため 2022 年 6 月から妊娠葛藤相談窓口「おかやま妊娠 SOS しぇると」を開設し、20 代以下の相談者が多いことが報告されました。

宮城県女医会市民公開講演会

知っておきたいめまいの話

～危険なめまいの見分け方～

2023 年 10 月 15 日（日）　仙台市医師会館多目的ホール

宮城支部　**樋渡奈奈子**

宮城県女医会では、活動の一環として、市民への健康啓発を目的に市民公開講演会を開催しております。今年度も日本女医会からの助成をいただき、講師に長町南めまい耳鼻咽喉科クリニックの宮崎浩充先生をお招きし、めまいをテーマとした講演会を開催しました（座長は現支部長で耳鼻科がご専門の岩﨑惠美子会員です）。当日はあいにくの雨模様で開場時は、参加者が少ないのでは？　と危惧されましたが、関係者も含め 50 名を超える方が参加されました。例年に比し男性も多く、ご講演後には現在通院中の方やなかなか改善されないメニエール病のお子様のご相談など具体的かつ切実な内容のご質問が多く寄せられ、講師の宮崎先生が誠実にかつ丁寧に回答されるお姿にも感銘いたしました。アンケートでもご講演は大変好評で、今後の講演会テーマに関して活発なご意見を数多くいただき、次年度に活かしたいと考えております。今回は 6 ～ 70 代の女性の参加が多く、中には 3 回以上参加されている方も数名おられ、今後も市民の皆様の要望に沿った講演会を開催していきたいと気持ちを新たにいたしました。最後にご講演賜りました宮崎先生の今後益々のご活躍をお祈り申し上げます。

宮崎浩充先生のお話

厚労省の国民生活基礎調査から勘案し、約 3000 万人程度の人がめまいに悩まされていると考えられ、高齢化、コロナ禍、ストレスの多い社会では増加傾向にある（内耳とストレスには因果関係がある）。

耳鼻科医の立場から大別して『めまい』は前庭性、非前庭性に分類され、また前庭性のめまいは中枢性（脳に異常のあるもの）、末梢性（平衡感覚をコントロールする三半規管や平衡感覚を脳に伝える神経に異常があるもの）、耳に全く関係のないものに大別される。ほとんどは『耳』に由来するもので、良性発作性頭位めまい症（以下 BPPV）が 6 ～ 7 割を占め、他にメニエール病、前庭神経炎があり、危険性はないが、めまいの症状は強い。危険なめまいとしていわゆる『頭の病気』である脳循環障害、脳卒中（脳梗塞・脳出血）は、頻度としては少なく、椎骨脳底動脈乖離や椎骨脳底動脈循環不全に起因するのはさらに少ない。また、最近増えている特徴的なめまいとして非前庭性である精神科的、心療内科的、自律神経的な不安神経症に起因するものがある。半身麻痺や神経麻痺があれば脳卒中を疑い（特に突然の激しい頭痛ではクモ膜下出血を疑う、眼が上

下に動く場合も要注意！）、脳神経内科・外科や救急外来受診が重要である（神経症状が明らかでないのに立てない！　動けない！　場合には脳幹部や小脳・延髄等の梗塞を疑う）。

重篤な神経疾患が否定されたら、耳鼻科では神経症状の確認と眼振並びに詳細な問診と必要な検査により、診断・治療へとつなげる。BPPV は眼振で耳石の位置を診断し、頭を動かすことで改善する。『自宅で出来る頭位治療』のパンフレットを利用していただいている。メニエール病は原因不明の内リンパ水腫でストレスの関与と難治性のめまいと難聴と耳鳴りが特徴で、ストレスを避け、有酸素運動と水分の摂取と薬物療法となる。難治性には手術の前に 2018 年から内耳に圧を掛ける治療法がある。前庭神経炎では原因不明で先行する感染症があり、耳閉感を伴わない強いめまいが長く持続し、対症療法となるが、ふらつきが残ることがある。一般にめまいには中枢抑制や鎮静効果、鎮痙効果や抗ストレス効果やステロイド様の作用を含む漢方薬はかなり効果がある。持続性知覚性姿勢誘発性めまい（PPPD）は 3 か月以上続く浮遊感、視覚のパターンでめまいが出現する。治療として SSRI 抗うつ薬が心因性のため有効で、めまいのリハビリ、認知行動療法が有効である。60 歳以上の加齢性前庭障害では両側の加齢性前庭障害があり、治療の主体は、開眼や閉眼での平衡訓練やめまいリハビリを毎日ゆっくりと継続することが重要である。筋力をつけることも有効である。また、リハビリ体操を記載したリハビリ手帳も役立つので継続して利用してほしい。めまいの改善にはストレスを避け、充分な睡眠、規則正しい生活、バランスの取れたバランスの取れた食事や充分な睡眠、前庭機能のリハビリとして週 3 回程度 40 分以上の有酸素運動、少なくとも 1 日 5 ～ 10 分程度の歩行を毎日続けることがお勧めでコーヒー 1 ～ 2 杯は良いが、喫煙は禁止。運転は調子の良いときのみ可能とし、リハビリの継続が大切である。

第 14 回　日本女医会軽井沢セミナー

於：軽井沢プリンスホテルウェスト　にれの木ホール　2023 年 10 月 21 日

軽井沢セミナー庶務担当　**馬場安紀子**

４年ぶりの開催となった軽井沢セミナーは、万平ホテルが改装休業中のため、軽井沢プリンスホテルで行われました。にれの木ホールの会場は、２面が全面ガラス張りで庭の緑と池に囲まれた、宿泊客の喧騒から離れた静謐なお部屋です。

講演会の初めに軽井沢セミナー会長の鹿田儀子先生と前田佳子日本女医会会長から開会のご挨拶をいただきました。2007 年にホテル鹿島の森での懇談会から始まり毎年休まず開催されてきたこの会ですが、2020 年からコロナ禍にて休会を余儀なくされ今回ようやく再開に至った喜びのお話でした。

前田会長によるご講演は、泌尿器科疾患について、急性膀胱炎、尿失禁、過活動膀胱といった女性に多い疾患の解剖学的な要因から最新の治療までわかりやすく解説され、我が事としてもしっかり勉強させていただきました。女性にとってこの分野については女性医師の方が相談しやすいのですが、泌尿器科の女性医師数はまだまだ少ないとのことです。学会の理事になられた前田会長の今後ますますのご活躍が期待されます。

懇親会での顔を合わせての歓談は暖かさに満ち、お料理もお酒もひとしお美味しく感じられ心を通わせ合う楽しいひとときでした。鹿田先生から花豆おこわをお土産にいただきお開きとなりました。お骨折りいただいた先生方、非会員 1 名を含め 14 名の参加者の皆様に心より感謝申し上げます。

翌日は晴天に恵まれ、観光に行かれた方から美しい紅葉の画像をいただき感動しました。次回も多くの皆様と想いを共有できますよう、ご参加よろしくお願いいたします。

国際女医会通信
The Letter from Medical Women's International Association（MWIA）

7 月にセブ島で西太平洋地域会議が開催されます

National coordinator（NC）前田佳子

新型コロナパンデミック中の 2021 年に開催されたバーチャル西太平洋地域会議から 3 年、7 年ぶりの対面開催となる西太平洋地域会議まで半年となりました。最新の情報をお伝えいたします。

西太平洋地域オンラインビジネスミーティング
2023 年 12 月 9 日

2023 年 6 月 21 日以来半年ぶりの開催となりました。韓国、香港、オーストラリア、台湾、フィリピン、日本から 12 人が参加しました。

副会長のローテーションを確認し、現在副会長の Bong Ok Kim の任期が 2025 年の国際女医会議まで、以降は台湾、フィリピン、日本、香港の順で副会長を務めることになります。西太平洋地域会議の開催は 2023 年開催予定であったフィリピンが、新型コロナウィルス感染症パンデミックを理由に 2024 年に延期し、次はオーストラリアが 2027 年に創立 100 周年と兼ねて開催予定です。日本は 2029 年か 2030 年に開催することになります。

10 月 16 ～ 20 日にフィリピンのマニラで開催された第 74 回 WHO 地域会議の報告がありました。

西太平洋地域会議のお知らせ

フィリピン女医会が 7 月 18 ～ 21 日に開催予定としていた西太平洋地域会議は、諸般の事情により 7 月 11 ～ 13 日に日程が変更となりました。

テーマ

"Empowering women in medicine and leadership"
医療とリーダーシップにおける女性エンパワーメント

開催地

フィリピン、セブ島

開催方式

現地開催のみ

会場

Waterfront Cebu City Hotel and Casino
（マクタン・セブ国際空港から車で 30 分）

セブ島は日本から直行便で約 5 時間、時差は -1 時間です。

7 月は雨季にあたり、気温は 25-31℃と同時期の東京とあまり変わりません。

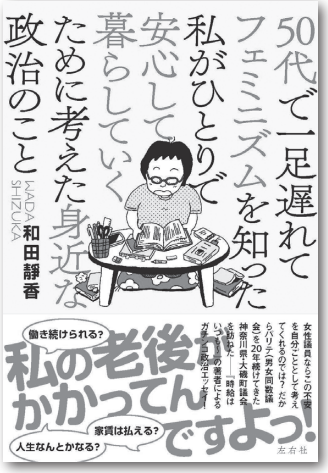
夏休みをとって訪れるのに最適な時期ですので、是非スケジュールを押さえておいてください。

会場：Waterfront Cebu City Hotel and Casino

本の紹介

『50 代で一足遅れてフェミニズムを知った私がひとりで安心して暮らしていくために考えた身近な政治のこと』

和田靜香（著）　発行：左右社　1,980 円



このとてつもなく長いタイトルの本は「老いているのだ、着々と。」からはじまる和田靜香ワールドである。19 歳でフリーランスのライターになった著者が、コロナで仕事を失ったのをきっかけに、衆議院議員の小川淳也氏との対話から市民の政治参加の重要性を実感する。日本の国政では実現まで程遠いと思われるパリテが、神奈川県大磯町の町議会では 20 年前から達成されていることを知り、その理由を探るべく大磯町を訪れる。和田さんのわかりやすくてちょっとラップな文章が、政治を身近で生活に密着したものだと感じさせてくれる。一足遅れたあなたに読んで欲しい一冊だ Yo！

（前田佳子）

公益社団法人日本女医会

(((理事会議事録)))

2023 年度第 3 回

1．日時・場所

1．日時　2023 年 7 月 15 日（土）
　午後 3 時 30 分～午後 4 時 55 分
2．場所　ZOOM によるオンライン会議
3．出欠席者
　1）出席者
　理事　前田佳子　藤谷宏子
　　青木正美　磯貝晶子
　　牛山元美　大谷智子
　　木村友美　塚田篤子
　　樋渡奈奈子　宮坂晴子
　　望月善子　芳川た江子
　監事　村上京子　大関ひろ美
　2）欠席者
　理事　野村明子

2．継続審議事項

1．創立 120 周年記念事業について（継続）
・塚田理事より、前回の理事会以降の寄附金の明細と現在までの収支が報告された。

2．2023 年度ブロック懇談会について（承認）
・芳川理事より、6/25 に佐賀で行われたブロック懇談会についての報告が行われた。また庶務部部会で提案された本年度のブロック懇談会を 1 回とする案が承認された。

3．第 68 回定時総会の報告と反省（承認）
・塚田理事より、修正収支資料の説明があり、不足分が通常の事業活動費で賄える程度に収まったことが報告され、役員から栃木の先生方に感謝の言葉が述べられた。

4．第 69 回定時総会について（継続）
・芳川理事より、来年 5/19 に東京で開催予定の会場探しは、すでに予約がいっぱいであったり、半年前からでないと予約を受け付けない施設もあり、難航している報告があった。
・前田会長より、東京のホテル相場についての説明があり、大学病院関係施設を 5/26 で仮押さえしたとの報告があった。
・青木副会長より、開催日について役員の意見が諮られたが、望月理事より別途調査する提案があり、しばらくは 5/19 と 5/26 の両案で調べることになった。

5．2023 年 3 月会計報告承認（承認）
・塚田理事より、前回理事会で前田会長から質問があった 2022 年度の事業別収支明細参考資料についての説明が行われ、来年度より予算案を修正することとなった。

3．審議事項

1．岡山ゆいねっとからの公開講演会助成申請について（承認）
・宮坂理事より申請内容の説明があり、5 万円の助成が承認された。

2．2023 年 6 月会計報告承認（承認）
・塚田理事より説明があり、2023 年 6 月の会計報告が承認された。

3．LINE 公式アカウント取得について（承認）
・磯貝理事より、ブロック懇談会で佐賀支部が活用している報告があり、IT 部でも試験導入する旨の提案があった。
・青木副会長より、日本女医会 HP に情報を掲示した旨の通知として使う案が出された。また日本女医会会員専用ページにアクセスするための会員登録の呼びかけがあった。

4．2023 年度第 2 回理事会議事録承認（承認）
・宮坂理事より説明があり、2023 年度第 2 回理事会議事録が承認された。

5．その他
・事務の寸志について（承認）
パートタイム勤務の事務員 3 名に 3 万円、3 万円、5 万円の夏季寸志を払うことが承認された。

4．報告事項

1．各部、NC 報告
1）庶務部報告
・芳川理事より、新入会員と会員動静についての報告があった。
・事務局夏季休業について、8/14（月）、15（火）とする旨報告があった。

2）広報部報告
・樋渡理事より、会誌 249 号については、「北から南から」の回数訂正と執筆予定者、百二十周年記念号については、スタッフ紹介のコメントを募る旨の報告があった。

3）学術部報告
・大谷理事より、未報告の学術研究助成受賞者に催促し、2024 年 1 月の会誌に掲載できるようにしたい旨の報告があった。

4）IT 部報告
・磯貝理事より、11/1 ～ 11/7 の期間限定配信になったキャリア・シンポジウムについての報告が行われ、長寿社会福祉事業オンラインセミナーについても期間限定配信になる旨が発表された。

5）ナショナルコーディネータ報告（前田会長）
・前田会長より、6/21 に開催された西太平洋地域役員会の報告があり、次回西太平洋地域会議は来年の 7/18 ～ 7/20、フィリピン（セブ島）で開催と決定し、理事会の日程と重なるため、調整して参加したい旨が述べられた。
　また、6/24 には国際女医会役員会議が開催されたが、ブロック懇談会と日程が重なっていたため出席できず、次回理事会で内容を報告する旨が述べられた。

2．各委員会報告
1）ダイバーシティ推進委員会
・木村理事より、11/1 ～ 11/7 に開催されるキャリア・シンポジウム講演会名の変更報告があり、「医学を志す女性のためのキャリア・シンポジウム」から「ダイバーシティ推進キャリア・シンポジウム」になった。

2）長寿社会福祉事業委員会
・芳川理事より、2023 年度長寿社会福祉事業オンラインセミナーの実施計画が発表され、キャリア・シンポジウム同様、期間限定配信で行われることになった。

3）女性の健康支援事業委員会（樋渡理事）
・樋渡理事より、9 月の理事会で講師を決め、11 月には準備を進めたいとの報告があった。
・前田会長、青木副会長より、LGBT およびトランス女性問題についての意見が発せられ、別途日本女医会として検討していきたい旨の発言があった。

4）小児救急事業委員会
・藤谷副会長から感染症などについて HP に掲載したい旨の報告があった。

5）HP 制作委員会
・前田会長より下記の掲載報告があった。
　①「DV・性暴力被害者の医療と連携した支援体制の構築のための研究」中間報告会案内
　② LGBT 理解増進法についての意見
　③水俣病の原点「百間排水溝」取り壊しに関しての意見

3．対外的団体活動（前田会長）
・前田会長より、日光市で開催された「G7 男女共同参画・女性活躍担当大臣会合」の翌日 6/26 に行われた「W7

G7 大臣と市民の対話報告会」について、日本の大臣だけ男性であったことに触れ、女性差別撤廃条約選択議定書に批准していないのは日本とアメリカだけであることや、LGBT 理解増進法の根本的な考え方について質問したところ、いずれもきちんと話し合われなかったことを確認した旨の報告があった。

4．その他

・樋渡理事より 7/1 に開催され、前田会長も出席した宮城県女医会総会講演会・懇親会の報告があった。

・宮坂理事より 7/9 に開催され、前田会長、青木副会長も出席した埼玉支部総会講演会の報告があった。

・青木副会長より、7/18 に開催予定の東京都支部連合会納涼会についての説明があり、出席の呼びかけがあった。

以上

公益社団法人日本女医会

(((理事会議事録)))

2023 年度第 4 回

1．日時・場所

1．日時　2023 年 9 月 16 日（土）
　午後 3 時 31 分～午後 4 時 49 分

2．場所　ZOOM によるオンライン会議

3．出欠席者

1）出席者

理事　前田佳子　藤谷宏子
　　磯貝晶子　牛山元美
　　大谷智子　木村友美
　　塚田篤子　野村明子
　　樋渡奈奈子　宮坂晴子
　　望月善子　芳川た江子
監事　大関ひろ美　村上京子

2）欠席者

理事　青木正美

2．継続審議事項

1．創立 120 周年記念事業について（継続）

・藤谷副会長より、前回の理事会以降の寄附金明細と現在までの収支が報告された。

2．第 69 回定時総会について（継続）

・芳川理事より、望月理事の紹介による総会会場候補の説明があり、前田会長より、関東の理事と事務局が下見に行く予定であることが報告された。

3．審議事項

1．会費の口座振替促進と領収書廃止の件について（承認）

・藤谷副会長より、現在約半数の会員が口座振替になっている会費納入推進とその領収書発行の原則廃止についての提案があり、今度の会誌送付時に同梱する文書案が承認された。また、前田会長の指摘により、文書には次年度からの会費が 15,000 円になることも明記することとなった。

2．ネットバンキングの導入について（承認）

・前田会長より、銀行の統廃合や業務のさらなる効率化等の理由から、事務局にネットバンキングを導入すること、セキュリティー対策のために承認用 PC を新たに設けることが提案され、承認された。導入の詳細については次回以降、さらに報告予定である。

3．2024 年度ブロック懇談会について（継続）

・芳川理事より、次年度のブロック懇談会の候補地提案の呼びかけがあった。

4．8 月臨時メール審議議事録承認（承認）

・前田会長より説明があり、2023 年度 8 月臨時メール審議議事録が承認された。

5．2023 年 7 月・8 月会計報告承認（承認）

・野村理事より、説明があり、2023 年 7 月、及び 8 月の会計報告が承認された。

6．2023 年度第 3 回理事会議事録承認（承認）

・宮坂理事より説明があり、2023 年度第 3 回理事会議事録が承認された。

7．その他

1）「日本の女性医師デー」申請について（継続）

・前田会長より、荻野吟子の誕生日である 4 月 4 日を「日本女性医師デー」として申請したいという提案があった。

・樋渡理事より、日本女医会単独の申請なのか、和暦のほうの誕生日を採用できないかという質問があった。

・牛山理事より、費用に見合う「日本女性医師デー」の活用案について質問があった。

・前田会長より、講演会やシンポジウム、キャンペーンなどに活用する、藤谷副会長より、女性医師へのハラスメント防止の啓発に活用する案が出された。

・磯貝理事より、女性医師への感謝の日にする案、宮坂理事より、女性医師支援を行っている日本医師会へも声掛けを行う案も出された。

・樋渡理事より、どの女性医師の誕生日にするか検討すべきという意見が出された。

・賛成多数で日本女医会による申請が承認されたが、「いい医療の日」を登録している日本医師会にも協力を仰ぐとともに、荻野吟子の誕生日でよいかどうか、改めて申請前に審議することとなった。

2）賛助会員希望の企業への返答について（継続）

・前田会長より、賛助会員希望の企業から寄せられた問い合わせメールについての説明があり、企業に質問のメールを送った段階であることが述べられた。

4．報告事項

1．各部、NC 報告

1）庶務部報告

・芳川理事より会員動静についての報告があった。

2）広報部報告

・樋渡理事より、会誌 249 号と創立百二十周年記念号が無事校了した報告と、次回の「北から南から」は大阪や近隣の会員に、「年頭所感」は引き続き役員にも、執筆をお願いする旨が述べられた。

3）学術部報告

・大谷理事より、各賞の応募状況、「学術研究助成受賞者の軌跡」未掲載の受賞者への催促、学術研究助成募集チラシの各医学部への発送についての報告があった。

4）IT 部報告

・磯貝理事より、LINE 公式アカウントについて現在調査中であるとの報告があった。

5）ナショナルコーディネータ報告

・前田会長より、6/24 に開催された国際女医会役員会議の議事録の入手が遅れているため、次回報告する旨が述べられた。

2．各委員会報告

1）ダイバーシティ推進委員会

・木村理事より、第 16 回ダイバーシティ推進キャリア・シンポジウム実施予定の詳細が報告され、拡散するよう呼びかけがあった。

2）長寿社会福祉委員会

・芳川理事より、2023 年度オンラインセミナー実施予定の詳細が報告された。

3）女性の健康支援事業委員会

・樋渡理事より、2023 年度の講演会について、テーマを「性の多様性」とし、LGBT である吉田絵理子医師を講師候補とする案が報告された。

・前田会長より、当事者としての話を主眼とする方針が確認された。

4）小児救急事業委員会

・藤谷副会長より、HP の「小児科専門医の相談室」ページに「花粉 - 食物アレルギー症候群」の記事を掲載した報告があった。

5）HP 制作委員会

前田会長より下記の掲載報告があった。

・原子力市民委員会が緊急声明を発表しました

・山本明美先生のオンライン勉強会「#WeCanLead」のご紹介

・会誌 249 号掲載の吉野ヶ里遺跡関連番組が 9/22 に放送されます

・戦争できる国への方向転換に反対します

3．対外的団体活動　（前田会長）

・前田会長より、7/19 に開かれた国際婦人年連絡会常任委員会の報告があった。

・国際婦人年連絡会加盟 33 団体、常任委員会担当委員、分野別委員会の名簿が共有された。

4．その他

1）経理担当事務の退職と経理のサポートの外部委託について

・前田会長より、経理担当事務員 1 名の退職に伴う応募状況の報告があり、安定的な運営を図るために、経理サポート業務を外部委託する旨の報告があった。

2）山梨支部支部長交代について

（前田会長）

・前田会長より、来年 4 月から山梨支部長、副支部長が交代になる旨の報告があった。

3）大阪府女医会第 17 回秋の学術講演会について

・藤谷副会長より、10/28 に開催される大阪府女医会第 17 回秋の学術講演会について、参加の呼びかけと共に、日本女医会 HP でも告知する旨が述べられた。

以上

役員選挙告示

公益社団法人日本女医会定款第二十五条、及び役員選出に関する規程（以下規程）により、以下の要領で役員選挙を行います。

規程により理事は地域別、及び全国区から選出され、監事は全国からの選出となります。

一、役員定数

理事　十二名以上二十二名以内（会長一名、副会長三名以内含む）

監事　二名以内

理事の地域別の定数は、規程第三条に依り以降に定めるものとする。

地域名	当該都道府県	定数
北海道 東北	北海道・青森・秋田・山形・岩手・宮城・福島	2
東京	東京都区内・都下	6
関東（東京外）	神奈川・千葉・埼玉・茨城・栃木・群馬	5
甲信越 北陸	石川・富山・新潟・長野・山梨・福井	1
東海	岐阜・愛知・静岡・三重	2
近畿	大阪・京都・兵庫・奈良・和歌山・滋賀	2
中国 四国	山口・岡山・広島・島根・鳥取・高知・徳島・愛媛・香川	1
九州 沖縄	福岡・佐賀・大分・長崎・熊本・宮崎・鹿児島・沖縄	1
全国区		2

二、立候補届の受付期間

令和六年一月二十一日～二月十九日

日本女医会本部事務局気付選挙管理委員会宛で、簡易書留またはレターパックで郵送のこと。（締切当日消印有効）

立候補時の届出書類は左記のものとし、日本女医会規定の用紙を用いることとする。

1　立候補届

2　規定の履歴書

3　支部長の推薦状

役員立候補者は、所属支部の支部長の推薦を必要とし、所属支部にて支部長不在の場合には、所属地域内の一名の支部長の推薦を必要とする。（立候補に関する届け出書類は日本女医会事務局にご請求ください）

三、選挙方法

理事選挙の各地域において、立候補が定数内の場合は無投票とする。定数を越えた場合は、該当地域の会員に立候補者名簿と投票用紙を郵送し、郵送による無記名投票を行う。

監事選挙に於いて立候補者数が定数内の場合には無投票とする。定数を超えた場合には、全国の会員に立候補者名簿と投票用紙を郵送し、郵送による無記名投票を行う。

四、投票期間

令和六年三月二十一日～四月十九日

期間中に投票用紙を日本女医会本部事務局気付選挙管理委員会宛に郵送のこと（締切当日消印有効）

五、投票結果の発表

投票結果の発表は、確定後ホームページで行う。

役員の承認は、第六十九回公益社団法人日 本女医会定時総会の席上において行い、その後、新理事の互選にて会長、副会長を選任する。

尚、被選挙人は入会後三年を経た正会員であり、令和六年三月三十一日現在で満七十五歳未満、支部長との兼任をしていない会員とする。選挙人は選挙の九十日前までの正会員で、いずれも会費完納者とする。

以上

公益社団法人日本女医会
選挙管理委員会

MSL南多摩公衆衛生センター
MINAMITAMA Sanitation Inspection Laboratories

「今は忙しいから」って
去年も言ってたな。

頑張るあなたは、
きっといつだって忙しい。
だけど、大切な身体のことだから、
年に一度の健康診断で「早期発見」を！

私たちは子宮頸がん検診への「きっかけづくり」を応援します。
ティール＆ホワイトリボン啓発キャンペーン　http://www.sikyukeigan.net/

SRECo.
株式会社エスレコ

2023 年度　女性の健康支援事業 オンライン公開講演会

LGBTQ ×医療
～「多様な性の相談窓口」に寄せられる困り事と今日的課題～

日　　時：2024 年 3 月 1 日（金）12：00 ～
　　3 月 8 日（金）12：00
開催方法：YouTube によるオンライン開催
講　　師：原ミナ汰先生 他
　　NPO 法人 共生社会をつくる性的マイノリティ支援全国ネットワーク（共生ネット）共同代表

参加ご希望の方は、日本女医会のホームページのイベント予約ページ（https://www.jmwa.or.jp/event-details/women）にてご登録ください。右の QR コードからもお申し込みいただけます。詳しくは同封のチラシをご覧ください。
事務局より視聴用 URL を返信いたします。講演会開始前日までに返信がない場合にはメールにてお問合せください。
講演会期間中は、送信された URL をクリックしてご視聴ください。

会員動静（2023 年 8 月 1 日～ 12 月 28 日現在・敬称略）

	氏　名	支部	卒年
入会	橋本貴子	愛知	平成 17
	原　真矢	東女	平成 25
	神戸雅子	東女	昭和 62
	平林かおる	栃木	昭和 57
	小泉実意子	神奈川	平成 2
	村上　綾	大阪	令和 2
	亀田博美	埼玉	昭和 62
	牛込恵美	京都	平成 15
	篠崎和美	新宿	昭和 62
退会	13 名		
物故	桑原明子	広島	昭和 38

編集後記　2024 年に迎える甲辰（きのえたつ）は、十干十二支の 41 番目の年にあたり、十干の 1 番目である『甲』と十二支の 5 番目である『辰』が重なる年です。辰は唯一の空想上の動物で、龍（竜）を意味し、陰陽五行説によると『甲』は草木の成長を表す意味があり、植物が成長するようにどんどん勢いを増して増えていくという意味があるそうです。祝すべき令和元年は新型コロナウィルス感染症が報告され、世界を巻き込んだパンデミックは社会的な終息を迎えつつあるでしょうか。 2023 年 5 月 5 日に WHO は『緊急事態宣言』終了を発表し、with コロナとして今も緊張の中にいます。その間にも世界各地での異常気象現象、2022 年のロシアのウクライナ侵略、そしてイスラエル・ガザ紛争……と心痛むばかりです。災いの種が一つでもなくなり、希望の年となることを願っております。
（樋渡奈奈子）

公益社団法人日本女医会 第 69 回 定時総会のお知らせ

新しい年を迎え、諸先生方にはご清祥にてご活躍のこととお慶び申し上げます。さて、公益社団法人日本女医会第 69 回定時総会は、東京におきまして下記の予定で開催されます。
また、公益社団法人日本女医会定款第 22 条により、本年は、現役員任期満了に伴う役員選挙を行います。ご多用とは存じますが、ぜひともご出席賜りますようお願い申し上げます。

●会場
シミック L&D Rooms 1
〒 105-0023 東京都港区芝浦 1-1-1 浜松町ビルディング 22F

●日時
5 月 19 日（日）
9：30　～　支部・本部連絡会
11：00　～　第 69 回定時総会（含理事・会長選挙）
13：30　～　公開講演会　浦野広明先生（税理士、立正大学法制研究所特別研究員）

●エクスカーション・懇親会
5 月 18 日（土）　16：20　～
（東京湾サンセットクルーズを開催予定）

プログラム・時間など変更になることもございます。詳細は、追ってお知らせいたします

寄附者一覧（2023 年 8 ～ 12 月末現在、敬称略）

以下のとおりお知らせいたします。
ご協力ありがとうございました。

栃　　木　　新井　寧子

創立百二十周年記念寄附者

外部監事　　大関ひろ美
埼　　玉　　宮坂　晴子
品　　川　　加納麻弓子
愛　　知　　加藤　庸子
宮　　城　　菅野　喜興
群　　馬　　鈴木　　弓
神 奈 川　　前田　佳子

日本女医会誌

復刊第 250 号　2024年1月31日発行

編集人　樋渡奈奈子　発行人　前田佳子
制作　あづま堂印刷株式会社
発行所　公益社団法人日本女医会
〒 151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷 1-3-19
ロワレール千駄ヶ谷 202
TEL 03-6447-0820　FAX 03-6447-0821
http://www.jmwa.or.jp
e-mail : office@jmwa.or.jp